

本日の検討事項

～復興へ向けた具体的な取組みについて考えよう～

（第2回 人の復興部会）

平成28年9月



福島県双葉町



「町民一人一人の復興」に関する施策の大枠(素案)作成の経緯

●第1回人の復興部会



「希望を持てる今後(5～10年度)の暮らしを考えよう」のテーマのもと、ワールドカフェ方式により意見交換

●町民集会を活用した子ども・若者、子育て世代からの意見聴取



「集まれ！ふたばっ子」「夢ふたば人」の集会へ参加



●双葉町復興まちづくり計画推進会議



町執行部による審議を経て、「町民一人一人の復興」に関する施策の大枠(素案)としてとりまとめ

●「町民一人一人の復興」に関する施策の大枠(素案)(資料4)

第2回人の復興部会でご議論いただきたいテーマ

第2回人の復興部会においては、第1回目に関心が高かった項目を含め、次の4つのテーマ毎に、復興に向けた具体的な取組みについて、ご議論いただきます。

● 自立した生活の再建に向けた取組

①「生活の再建」

● 町民のきずなの維持・発展に向けた取組

②「双葉町外拠点（勿来）の活用」

● 次世代を育み、ふるさとを繋いでいくための取組

③「双葉町を担う次世代の育成」

④「震災・事故の教訓と復興の過程の記録・発信・伝承」

グループA ①「生活の再建」

生活再建に関する支援・取組みで、特に助かっていることや今後も続けて欲しいことは何でしょうか。

また、長期化する避難生活で、お困りになっていることや新たに必要となっている支援・取組みはありますか。

参考：これまでの取組み

双葉町

周辺自治体

【住環境】

- ・住宅復興資金利子補給事業
- ・災害復興住宅融資
- ・住まいの復興給付金制度



【税の減免等(要望含む)】

- ・各種減免措置
- ・健康保険・医療保険の一部負担金免除
- ・介護保険サービス利用料の免除



【賠償関係】

- ・賠償指針・基準の見直し・拡充の要求
- ・双葉町弁護士との連携
- ・原子力損害賠償紛争解決センター(ADR)の制度拡充を国等に要求



【その他】

- ・出産祝金、敬老祝金
- ・高速道路の無料化延長要望



- ・町民の年齢・性別・家族などの状況に応じた支援メニューの検討(富岡町)
- ・避難指示解除後における各種減免措置の継続(国・県へ要請)し、生活再建を果たすまでの負担軽減を検討

グループB ②「双葉町外拠点の活用」

きずな・歴史・文化・伝統などの維持・発展のため、この拠点をどのように活用したら良いでしょうか。

○みなさんが立ち寄りたいと思う拠点とは？

○みなさんが取り組んでみたい活動とは？



そのために必要な支援や取り組みは？



参考:これまでの取り組み

【ハード整備】

- ・店舗等 ・集会所等の交流施設 ・お祭り広場
 - ・ふれあい農園(仮称) ・高齢者福祉施設
- などが併設予定



【ソフト事業】

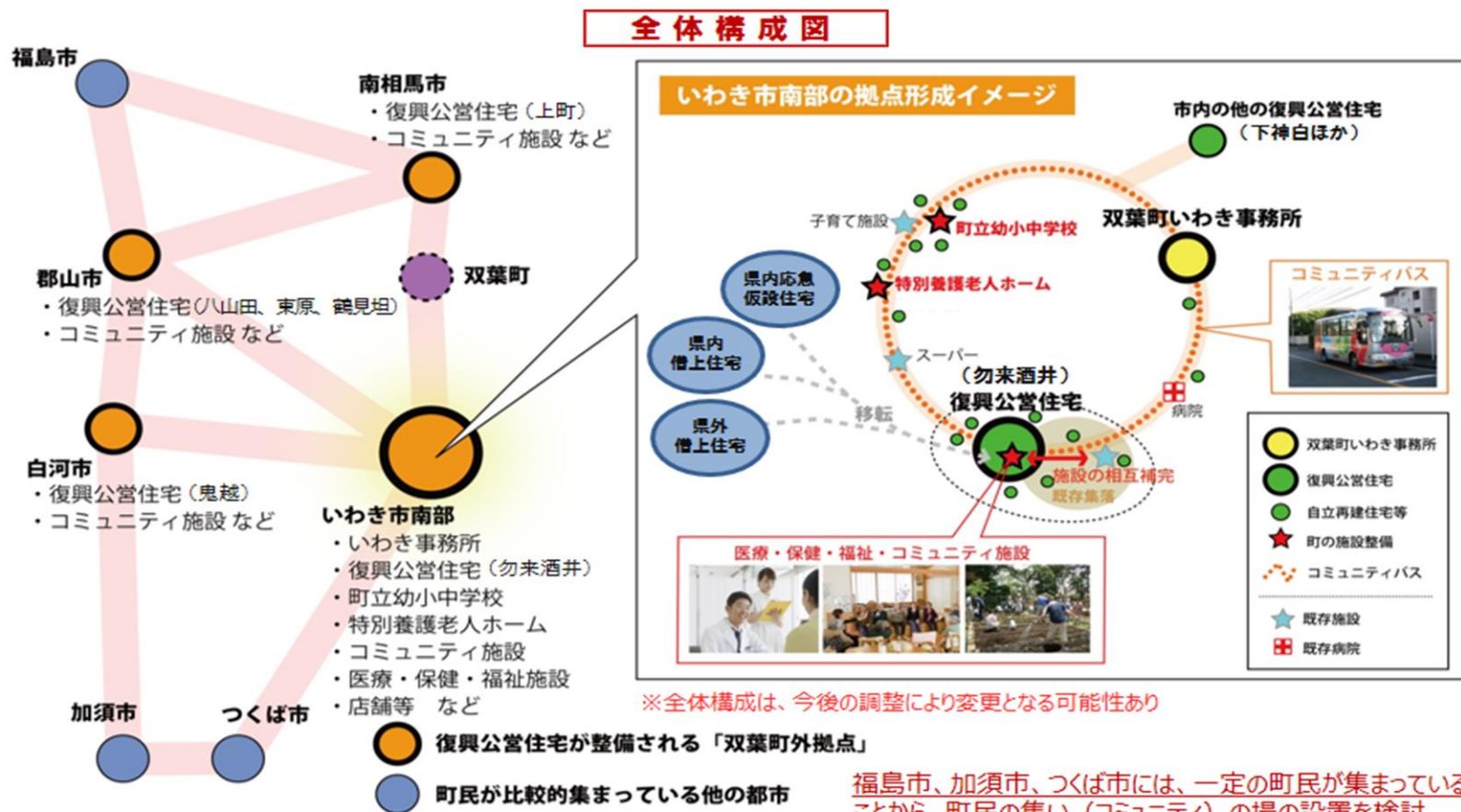
- ・町民交流施設の設置の在り方や運営方法の検討
- ・郡山市と加須市に役場支所、サポートセンターと町民交流施設を設置
- ・町民同士の情報交換・コミュニティ維持



- ・「おみせ屋さん」復興公営住宅への設置検討中(大熊町)
- ・郡山市復興公営住宅のコミュニティ団体「みんぷく」による交流会(大熊町)
- ・県内複数地点の浪江町交流館を開所し、コミュニティ支援員を配置(浪江町)
- ・復興公営住宅の自治会組織立ち上げ(富岡町)

(参考) 双葉町外拠点 (復興公営住宅整備) の全体構成

- 双葉町民が集まって居住できる県営の復興公営住宅が、いわき市、郡山市、南相馬市、白河市に整備。
この復興公営住宅を「**双葉町外拠点**」として、町民のコミュニティの拠点としても機能できるようにする。
- 特に、いわき市の希望が最も多く、いわき市勿来地区には、役場事務所が所在し、町立幼小中学校も再開されていることから、いわき市南部 (勿来酒井地区) の復興公営住宅を「**双葉町外拠点**」の**中心**とする。



(参考) 勿来酒井地区復興公営住宅（双葉町外拠点中心）の概要

【完成イメージ】



【位置】



【整備概要】

- 整備戸数：180戸（予定）
- 住戸形態：共同住宅（集合住宅、テラスハウス）
戸建住宅
- 整備見通し：平成29年度後期（平成30年3月入居予定）
- 併設施設：双葉郡立診療所、高齢者等サポート拠点、
集会所、広場・公園等、共同店舗用地
※併設施設は調整中のものを含みます。



周辺拡大図

グループC ③「双葉町を担う次世代の育成」

若者が行動力を発揮できる機会として、どのような「場」が考えられるでしょうか。
また、そのためには、若者支援や子育て支援として、どのような取り組みが必要でしょうか。

参考:これまでの取り組み

【次世代リーダーの育成】

- ・NPO法人等の設立支援(現状、設立ニーズなし)
- ・勉強会開催支援(学識経験者派遣:実績なし)
- ・中間支援組織「特定非営利法人うつくしまNPOネットワーク」などとの連携
- ・若手のキーパーソンとの交流・若者による企画推進協議会の設立支援(「ふたばしゃべり場」、「夢ふたば人」など)
- ・婦人学級の開設

【子育て支援】

- ・町外拠点における保育・託児サービスの提供検討中
- ・ママサロンの開催



- ・子育て中の母親の悩み相談・育児相談(大熊町)
- ・若い世代を中心とするバーチャルコミュニティ形成(SNS等遠隔地間の双方向コミュニケーション)(大熊町)
- ・町民や地元企業が参加するまちづくり会社「一般社団法人ならはみらい」を設立(榑葉町)
- ・農業ボランティアなどの新たな担い手育成(榑葉町)
- ・ボランティアセンター設立(浪江)



グループD ④「震災・事故の教訓と復興の過程の記録・発信・伝承」

次の世代や世界へ震災・事故の教訓等を伝えていくために、何を残すべきでしょうか。

（例：みなさんがお持ちの震災に関するもの、震災時に止まった役場の時計 など）

また、次の世代や世界へ震災・事故の教訓等を伝えていくために、どのような取組みが考えられるでしょうか。



参考：これまでの取組み

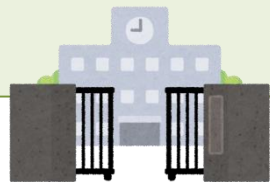


【保全】

- ・震災・避難の記録保全を筑波大学と共同で実施
- ・震災と原発事故の記録誌の編纂に向けた体制整備
- ・震災に関わるチラシや文書等の整理、デジタルデータ化

【発信】

- ・勿来酒井復興公営住宅に紹介場所の確保を検討中
- ・「語り部」の人材育成
- ・デジタル化したものは、町のホームページ等への掲載
- ・町の現状を報道していただくなど、取材する機会を提供
- ・復興祈念公園、アーカイブセンターの誘致



- ・津波浸水エリアへのポール設置、津波高・浸水高のまちなか表示（榎葉町）

【参考資料】

東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設

東日本大震災・原子力アーカイブ拠点施設有識者会議 報告書より

(有識者会議におけるとりまとめをもとに整理)

世界初の甚大な複合災害を経験した福島

地震・津波災害



原子力災害

この災害からの復興拠点として、人々が集うシンボルとなる場

【基本理念】

世界初の複合災害と復興の記録や教訓の

**未来への継承
世界との共有**

福島にしかない複合災害の経験や教訓を活かす

防災・減災

福島に心を寄せる人々と団体と連携し、地域コミュニティや文化・伝統の再生、復興を担う人材の育成等による、

復興の加速化への寄与

【施設の機能とエリア】

展示・交流エリア

広島や長崎のように、国内外から観光客や修学旅行・教育旅行・企業研修生が訪れる場であって、被災者を始めとする復興に向かう県民が、県内の様々な取組の現状を知り復興への思いを強くする、アーカイブの中核的な場

機能1：正確でリアルタイムな情報発信

世界へ向けた情報発信・総合的なアーカイブサイトの構築・廃炉進捗情報 など

機能2：訪れる多くの人々に効果的に伝える展示

事実に基づいた内容・象徴的な実物展示による記憶の継承・更新しやすいシステム など

機能3：後世に正しく伝える教育

災害の実態や教訓、福島の歴史文化を多世代へ継承・教育旅行の受入れ、年代や立場に応じた様々な学びの場 など

機能4：地域コミュニティの再生に資する様々な交流

活動の場の提供・語り部等の活動による世代間交流・地域や国を超えた連携活動 など

機能5：復興を担う人材育成

コーディネーター育成・ボランティアスタッフの組織化・地域文化、伝統芸能を担う人材育成・防災、減災関係者の専門研修 など

資料エリア

世界初の甚大な複合災害による史上類を見ない遺構や遺物、文書・映像等の保存は急務。逸失、散逸防止に寄与するのみならず、これから数十年にわたる福島の原子力災害を克服する姿を記録・保管し続ける、展示・交流、研究の心臓部としての役割を果たす場。

機能6：災害の記録や資料の収集・保存

研究エリア

様々な研究者、福島でチャレンジするための調査を行う方々、知識をさらに深めようとするリピーター等が、収蔵されている福島にしかない収集資料に魅力を感じて、集い・更なる調査・研究を深め、研究会やシンポジウム等を通じた発信により災害研究や政策立案、教育等人材育成に寄与する、全体の頭脳としての役割を果たす場。

機能7：複合災害の実態と教訓の継承・共有のための調査研究

【参考資料】

東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設

発信イメージとコンテンツの例

